国立国語研究所学術情報リポジトリ

使えるかもしれない隠岐弁講座

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2019-11-29 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15084/00002493

「使えるかもしれない隠岐弁講座」

吉井　重伸・坂本　忠司

（ＡＡ）どうもありがとうございました。それでは早速最初のプログラムに入りたいと思います。隠岐の先生，吉井重伸さんと，坂本忠司さん，「使えるかもしれない隠岐弁講座」。私もホームページを拝見しました。やっぱりすごいなと，それを見ながら勉強しています。今日はよろしくお願いします。

（坂本）失礼します。「使えるかもしれない隠岐弁講座」の時間がやってまいりました。（拍手）。ありがとうございます。本日，司会を務めます坂本忠司といいます。ただ，坂本忠司って皆さん，たぶん言いにくいと思いますので，私のことはマイケルと呼んでください（笑）。私も普段，標準語しかしゃべりませんけれども，今日は皆さんと一緒にこの隠岐の島の素晴らしい言葉の宝物，隠岐の隠岐弁を一緒に勉強していけたらなと思っております。

それでは早速，本日隠岐弁を教えていただく先生をご紹介しましょう。本日の先生は吉井さんです。（拍手）

（吉井）どうも，皆さん。マイクは入っているんですかね。大丈夫ですね，すみません。今日は楽しく隠岐弁を，ここに書いてあるように「使えるかもしれない」と書いていますので，あまりまじめにとらえていただかず，あくまでこれは我々のバラエティーの感じで楽しくおかしくやりたいなと思っておりますので。

（坂本）きちんとした話はこの後の先生方がされるので。

（吉井）我々はあくまで前座ですからね。

（坂本）気持ちと体をリラックスさせるためにね。

（吉井）そういう感じでやらせてもらいたいと思います。今日，我々は隠岐弁と銘打っていますけど 2 人とも西郷出身なので，わりかしと西郷弁を中心とした隠岐弁をね。お前らがやっているのは隠岐弁ではないじゃないかとか，たまにまじめな人が言うんですけれどもいや，そこまでまじめに言わないでくださいと。僕らは西郷弁ですからね，を中心にやろうと思っています。よろしくお願いします。

（坂本）そうですね。ちょっと若干我々は早口なところがね。

（吉井）早いので付いてきてください（笑）。じゃあ，今回どういう形式でやるかと，やり方をマイケル君から説明をしてもらいます。

（坂本）私がまず初めに標準語を皆様にお届けします。その後，吉井先生が隠岐弁に直して言いますので。もしかしたら

皆さんにも復唱をしてもらうかもしれませんので。

（吉井）ちょっと復唱をしていただきたい。何でかと言いますと，今日は我々より先輩が多いですから。

（坂本）そうですね。

（吉井）僕ら以上にたぶん隠岐弁を知っていると思うんですよ。その方々の言葉も聞きたいなと思って。

（坂本）もう我々若輩者がおこがましいですけれども。

（吉井）若輩者ですからね。だから我々，今日の講座が終わった後で，お前ら違うって言われるかもしれませんけど，一切この後苦情は受け付けません（笑）。すみませんけれどもお願いします。

（坂本）それでは早速やってみましょうか。

（吉井）ですね。やり方はさっき言ったように標準語，隠岐弁ですけれども，まず簡単なあいさつとか日常会話からどんどん難しい隠岐弁をしようと思っていますのでね。

（坂本）そうですね。

（吉井）じゃあ，ここに素晴らしいスタッフがいますので。僕がはいと言ったらどんどん変えていきましょうかね。打ち合わせしてなかったですね。すみません。

まず最初にここに書いてありますようにあいさつ編。隠岐でよく使われるあいさつを隠岐弁で紹介したいと思います。たぶんここにおられる方はほとんど，あっ，聞いたことがあるなと思うんです。

（坂本）そうですよね。

（吉井）多少オーバーな表現もあります。そこは笑ってください。ではまず最初に日常のよく聞かれる会話です。マイケル君，お願いします。

（坂本）久しぶりですね。

（吉井）いや，ちょっと待ってくださいよ（笑）。少々タイムラグがありましたのでね。ちゃんとお願いしますよ。

（坂本）大丈夫ですか。

（吉井）僕がはいと言ったらどんどん変えましょうね。では。

（坂本）「久しぶりですね，お元気でしたか」。「久しぶりですね，お元気でしたか」。

（吉井）これが隠岐弁になりますとこうなります。「ひさしござんしたの，まめでござんしたかの」とこうなりますね。こんなのはよく聞かれますよね，しょっちゅうね。

（坂本）そうですね。

（吉井）もうちょっとぽんといってもらえたら。ぱっと出して，次のときはね（笑）。これはよく聞かれますね。まずこの「ござんしたの」というのが，これは隠岐ではよく使われますよね。

（坂本）みやびな言い方ですね。

（吉井）すごく古風ないい言葉ですよね，「ござんした」という。あとこの「まめでござんしたの」。この「まめ」，これは元気ですかという，「You're fine?」という英語で言ったら。元気ですかということです。

これを一遍ぐらい皆さんに復唱してもらっていいですかね。いいですか皆さん，一緒に僕が言いますので，復唱をいいですか。ちょっと聞いてみたいので，どんな感じか。これも勉強になりますのでいいですか。では，いきます。「ひさしござんしたの，まめでござんしたかの」。はい。

(会場)「ひさしござんしたの，まめでござんしたかの」。

(坂本) 皆さん，やっぱり上手ですね。ネーティブの隠岐弁をね。

(吉井) やる必要ないですよね。じゃあ，どんどん。次は同じあいさつでも夕方にかけて。

(坂本) なるほど，夕方の方ですね。

(吉井) 夕方にかけてよく聞かれるやつです。では，お願いします。

(坂本)「おばあさん，こんばんは。今日も 1 日が終わりましたね。おばあさん，こんばんは。今日も 1 日が終わりましたね」。

(吉井) これが隠岐弁になりますとこうなります。「ばあさん，おしまいさんでござんす」(笑)。これはさっき教育長がね。

(坂本) ネタばらししていました。

(吉井) もうネタばらししていたのでね，やりづらかったですけれども。さっき教育長が言われたように，こんばんはでもないと。でもこんばんはの意味も入っているんですよね。

(坂本) そうですね。

(吉井) いわゆる今日 1 日が終わりましたね，お疲れさんでしたというような意味を全部含めた言葉です。

(坂本) なるほど。

(吉井) 大変いい言葉ですから，もう今日の夕方から皆さん。たぶん使っているでしょうね。

(坂本) そうでしょうね。

(吉井) 聞かれると思う。

(坂本) やっぱりこの「ござんす」というのが，木枯し紋次郎みたいな感じでいいですね。

(吉井) ふざけているんじゃないから。「ござんす」っていい言葉です。そして次，これは感謝を述べるときに使う隠岐弁ですね。では標準語はお願いします。

(坂本)「ありがとうございました。いえいえ，どういたしまして。ありがとうございました。いえいえ，どういたしまして」。

(吉井) これが隠岐弁になりますとこうなります。「だんだん，あ～え，なんがなんが」(笑)。こう言いますね。「だんだん」は別に隠岐弁ではなくて。

(坂本) 松江の方でもね。

(吉井) どこでも使う。いわゆるありがとう，感謝の気持ちで。この「あ～え」っていい言葉ですよね。だいたい隠岐弁は延ばしたり 2 回続けたりするのが多いです。この「なんがなんが」というのは，これもまた，どういたしまして，いいですよという 2 回続けることで強調していますから。この「なんがなんが」。

(坂本)『サザエさん』の昔のエンディングで，んが，ん，みたいな（笑)。

(吉井) 違います。「なんがなんが」ってね。これも皆さん，よく使っていますよね。そして次はお別れのときのをちょっと行きましょうかね。では，標準語はこうなります。

（坂本）「それではこれで失礼します」。「それではこれで失礼します」。
（吉井）これが隠岐弁ではこうなります。「んならいのっずや」（笑）。
（坂本）この辺からもう日本語じゃなくなってきましたね。
（吉井）いや，ここはしょっちゅう，今日も帰るときに皆さん使いますからね。
（坂本）そうですか。
（吉井）「ん」から始まる。
（坂本）「ん」から始まる。珍しいですね。
（吉井）「んならいのっずや」というね。この「いのっずや」は「いのる」ですか。
（坂本）祈る，プレイヤー（prayer）の方ではないですね。
（吉井）「いのる」というのはこれではなくて，帰ることを隠岐弁で「いのる」。
（坂本）「いぬる」とか。
（吉井）「いぬる」ですね。「いぬる」がなまって「いのる」になりますよね。これもよく使われます。「んならいのっずや」。
（坂本）「いのっずや」という。
（吉井）この辺までは皆さん，しょっちゅう使っていますから，お前ら，何ということだと。こんなの当たり前だと。あとはどんどん深い隠岐弁が出てきますから。そして次じゃあ，行きますかね。次は，これは今はちょっと寒いんですけど。ちょっと出すのが早いです（笑）。夏とかによく聞かれる言葉。じゃあ，行きましょう。
（坂本）「今日はすごく暑いからうっとおしくて，くらくらして目まいがしそうだよ」。
（吉井）ちょっと長くなりましたよ。
（坂本）「今日はすごく暑いからうっとおしくて，くらくらして目まいがしそうだよ」。なかなかここまで言いませんけどね，普通。
（吉井）よく夏にありますね。
（坂本）あります，あります。
（吉井）隠岐弁でこうなります。「今日はがいにぬきーけんうずらして，マグマグがつくやあなわ」（笑）。
（坂本）これは本当ですか。
（吉井）来年の夏にたぶん皆さんは使っています。
（坂本）ねえって，そんな。
（吉井）まずこの「がいに」というのは隠岐弁でよく大きいとか，隠岐弁じゃないんですけどね。
（坂本）たくさんとかね。
（吉井）そうです。「ぬきーけん」。暑いことをぬくい，ぬくいと言いますよね。「ぬきーけん」って。「うずらして」というのか隠岐弁で，うっとおしいとか不快な気分のときに，「まあ，うずらしわー」と言いますよね。あとこの「マグマグがつく」。これが隠岐弁ならではの。皆さん，使いますか。
（坂本）「まぐれる」とかよく聞きますね。
（吉井）「まぐれる」というのも使いますね。いわゆる熱中症とか暑くて，もう何だろう，ふら

ふらするというようなことを，「マグマグがつく」と。

（坂本）マグカップが付くじゃだめですか（笑）。

（吉井）いや，違います，「マグマグ」。さっきマイケル君が言われたように「まぐれる」という言葉，まくれるじゃないですよ，「まぐれる」という。これはパタンと倒れたり，卒倒して倒れたりすると隠岐弁で「まぐれる」と言いますから。それと同じ「まぐ」でしょうね。

（坂本）「まぐ」ですね。

（吉井）これは片仮名で「マグマグ」なっているんですけど，これはよく分かりませんよ。平仮名か片仮名かは。

（坂本）漢字ではないですね。

（吉井）漢字ではないでしょうね。これもせっかくですから皆さんに 1 回ぐらい復唱してもらいましょう。

（坂本）ちょっと長いですけど大丈夫ですかね。

（吉井）大丈夫ですよね。じゃあ，いきましょうね。はい，では。「今日はがいにぬきーけんうずらして，マグマグがつくやあなわ」。

（会場）「今日はがいにぬきーけんうずらして，マグマグがつくやあなわ」。

（坂本）大事なことを言ってない。

（吉井）何でしょう。

（坂本）隠岐弁の特定，3 大ポイントが。

（吉井）あります，あります，3 つね。まず 1 つはブレスですね，息継ぎです。どこで息継ぎをするかですね。

（坂本）そうですね。隠岐弁を言うときに息継ぎの場所が大事ですね。それから。

（吉井）もう 1 つが。

（坂本）吐き捨てる。

（吉井）そう，結構ぱぱっと吐き捨てる必要があって，我々2 人は早口なので若干早口の方が隠岐弁らしくなりますからね。これも大事なことで。皆さん，でも上手ですよ。

（坂本）上手ですよね。

（吉井）いよいよ次のコーナーに行きますかね。じゃあ，お願いします。次は。

（坂本）学校でよく使われる隠岐弁ですね。

（吉井）これは学校で今も昔もよく使われるいろいろな隠岐の方言を紹介したいと思います。

（坂本）結構見渡したら，お客さんの中にも学校の関係者の方がおられますので。

（吉井）ですから覚えていただいて，明日は日曜日か，あさってから使ってもらいたいという隠岐弁が入っていますからね。では，まず最初に，次の隠岐弁は，昔はこんな子供さんがたくさんいたなという隠岐弁がありますね。では標準語を。

（坂本）「誰なんだ，悪さをする子は」。

（吉井）いましたね，こんな子。

（坂本）「誰なんだ，悪さをする子は」。

（吉井）隠岐弁になるとこうなります。「だいだだだけ，わーさばーずは」（笑）。

（坂本）「だ」がたくさんありますね。
（吉井）これがなかなかね。これもよく使いますよね。
（坂本）結婚式の司会者が何とか家，何とか家，ご両家の。
（吉井）違う，違う，その「け」じゃない。
（坂本）違う？
（吉井）その「け」じゃなくてね。まず，誰なんだ。「だいだだだけ」。「だ」3 つですよ。この「け」というのは強調の「け」です。
（坂本）強調の「け」。
（吉井）よく漁師のおじさんなんかがやたら「け」を付けます。「お前はけー，ほんとにけー，ちくしょうがけー」って。すごく「け」を付けますよね（笑）。
（坂本）そうですか。
（吉井）その「け」です。
（坂本）そんなに付くわけですか。
（吉井）とにかく「け」を付けたら強調します。そして悪さばかりしている子。
（坂本）悪さばかりする子，はい。
（吉井）まあ，「ごんぞ」とも言いますよね。「ごんぞう」とか。
（坂本）「ごんた」とかね。
（吉井）「ごんた」とか。「わーさばーず」，言いますよね。これも小さいときに言われた人もいると思うんですけれどもね。
（坂本）おるんですかね。
（吉井）我々は言われていませんけどね。
（坂本）そうですね。
（吉井）先生方がおられたらあさってから使ってください。次は学校の授業中とかによく使われるんですね。では標準語をお願いします。
（坂本）「落ち着きがないぞ，じっとしときなさい。落ち着きがないぞ，じっとしときなさい」。
（吉井）これを隠岐弁でこうなります。「けそけそすんな」（笑）。
（坂本）めそめそするなですか。
（吉井）いや，「けそけそ」。
（坂本）「けそけそすんな」。
（吉井）はい。こんなの小さいときに言われたでしょう。
（坂本）いや，言われていませんよ。
（吉井）本当に？　とにかくじっとしてないようなことを「けそけそすっじゃねーが」と言われますよね。
（坂本）そうですか。
（吉井）その「けそけそ」です。
（坂本）これはどういったところから。
（吉井）これは難しいですね，意味はね。これは教育長が後で説明するはずです（笑）。
（坂本）家内と話し合ってもらって。

（吉井）そしてどんどんいきましょうね，時間もないですからね。次は運動会なんかでよく使われる隠岐弁。

（坂本）いつでも使わないですか。

（吉井）いや，たぶんですけれども。では，まず標準語をお願いします。

（坂本）「君，すごい力で引っ張るねー」。これはあんまり使いませんよ（笑）。

（吉井）綱引きとか。

（坂本）綱引きとか，そうですか。「君，すごい力で引っ張るねー」。

（吉井）これは隠岐弁でこうなります。「こんた，がいな馬力でしゃばるじゃねー」（笑）。まず大事なポイントはこの「こんた」。「こんた」って知っていますよね。結構知らない人がいて「こんた」というのは，あなたとか，君のことを「こんた」。自分のことは何か分かります？

（会場）「ら」。

（吉井）「ら」，さすがですね。「ら」と「こんた」。ちなみに私たちとあなたたちは，何て言うか分かります？　「ららとこんたら」。「ららとこんたら」といったらもう何て言っているか分からないですね。

（坂本）そうですね。カラオケボックスとかですね（笑）。

（吉井）違う，違う。まあ，「こんた」。「がいな馬力」，力のことを馬力と言いますよね。そして「しゃばるじゃねー」。引っ張ることをみんな「しゃばる，しゃばる」と言います。

（坂本）しゃべるとかしゃぶるというのではない。

（吉井）じゃなくて「引っ張る」ことは「しゃばる」と言います。これもよく聞かれますよね。そして次は何でしょうかね。

（坂本）これは授業中ですね。

（吉井）授業中ですね。授業中にこれまた聞かれる言葉です。じゃあ，はい。

（坂本）「こら，お前は何をしているんだ。すみません，疲れてつい眠っていました。こら，お前は何をしているんだ。すみません，疲れてつい眠っていました」。

（吉井）これは隠岐弁でこうなります。「ていっ，のしゃなんしちょっ。すんません，こわーていねがついちょった」（笑）。

（坂本）また難しいね。

（吉井）難しいといえば難しいですけど，これはよく使われますよね。そんな難しくないです。まず「ていっ」というのが。これもこらというときによく「ていっ」とよく怒るんじゃないですかね。

（坂本）あまり，それは。

（吉井）いやいや，使います。たぶん使った人もたくさんいますよ。「のしゃなんしちょっ」。

（坂本）これはおぬしから来ている。

（吉井）「のしゃ」というのは「のし」というのはおぬしから来ていますね。お前とかという親しみを込めて「のしゃ」。「すんません。こわーていねがついちょった」というのが，まず「こわい」というのが，これは「こわい」というのも恐ろしいではないですね。

（坂本）ないですね。

（吉井）これはタイヤード（tired）の方の。
（坂本）疲れるですかね。
（吉井）疲れる方だね。隠岐弁って疲れるときに「こわい，こわい」と。
（坂本）島前なんかは「せつない」とか。
（吉井）「せつねえ，せつねえ」って言いますね。これは「こわい」。そしてこの「いねがついちょった」。これは意味がちょっと難しいですけど，どんな感じ。
（坂本）例えばどういったようなシチュエーションで使うのかというのをちょっと言ってもらったら。
（吉井）はい，僕の方でこれを説明します。
（坂本）そうですか。今から先生がどういった場合に使うかというのを説明しますので，お願いしたいと思います。先生，先生，先生。
（吉井）「おお，いねがついちょった」。
（坂本）もうやっていたんですね（笑）。
（吉井）すみません，あんな感じです。
（坂本）こういうときに使うんですね。
（吉井）思わず知らない間にうつらうつら，こっくりこっくり居眠りしているときに，「いねがついちょった」と，あんな感じですよね。
（坂本）よく分かりましたね。
（吉井）ではどんどん行きましょうか。次は給食のときなどによく使われる。
（坂本）そこまで考えていますね。
（吉井）給食のときなんかに聞かれる言葉ですかね。では，はい，お願いします。
（坂本）「君はご飯を食べさせてもらってないのか，がつがつ食べて意地汚いなー」。
（吉井）こんなことを今言いませんけれども。
（坂本）誰がこれを言います？
（吉井）昔は言ったでしょうね，たぶん。
（坂本）「君はご飯をたべさせてもらってないのか，がつがつ食べて意地汚いなー」。
（吉井）これは隠岐弁でこうなります。「こんたすてがつれか，こんじゃがきたねーな」（笑）。
（坂本）絶対それは言いませんよ。
（吉井）いやいや，たぶん言われていますよね，小さいときに。僕は言われていませんよ。
（坂本）失礼ですよ。
（吉井）これね，「すてがつれ」ってすごく汚い言葉ですよね。要するに家の人が忙しくてあまり構ってもらってない状態ですよね。「こんじゃがきたねー」，これは意地汚いですね。これはたまに今でも僕，言われますよ。
（坂本）おやつなんかのことは「こじゃ」って。
（吉井）「こじゃ」って間食のことですね。間食は「こじゃ」って言いますね。
（坂本）これ，ちょっと違いますか。
（吉井）違うんですね。
（坂本）そうですか。

（吉井）意地汚くがつがつ食ってばっかり，「こんじゃがきたねーな」。これは言われない方がいいですよね。

（坂本）そうですね。

（吉井）そして次もこんな人いますかね。じゃあ，次の隠岐弁に行きましょうか，では，お願いします。

（坂本）「君はずるいなー。ずるい，ずるい，ずる賢いよ」。絶対これ，言いませんよ。

（吉井）いや，いるんです，こんな子供さんが（笑）。

（坂本）「君はずるいなー。ずるい，ずるい，ずる賢いよ」。

（吉井）これは隠岐弁でこうなります。「こんた，すたけーなー，すたけー，すたけー，すったらがしけぇ」。

（坂本）般若心経の中にあるでしょう，ぎゃーてーぎゃーてーはーらーぎゃーてー，みたいな。

（吉井）よく隠岐弁をばーっとしゃべっていたら，都会の人は何を言っているか分からないというよりも呪文かと言われる（笑）。呪文ぽくなりますけど，これもでも確かに「すたけー」は分かりますよね。ずるいことを「すたこい，すたこい」。本当は「すたこい」です。これがしゃべって早口になったのが「すたけー，すたけー」。ずる賢いことを。うちも死んだおやじがよく言っていました，「すったらがしけー」って。

（坂本）そうですか。

（吉井）「すったらがしけーわけー，こんたは」といって。僕じゃないですよ。とにかくものすごく頭の回転が速くて，とにかくずる賢いことを「すったらがしけー」。

（坂本）なるほど。

（吉井）ある意味褒め言葉かもしれません。

（坂本）そこなんですよね。

（吉井）そして次はまだ学校編ですよね。

（坂本）まだ学校編です。

（吉井）学校から帰る途中，下校のときなんかによく使う隠岐弁を紹介します。では標準語をお願いします。

（坂本）「坂本のお兄ちゃんが家に帰る途中で転んでけがをしたらしいよ」。「坂本のお兄ちゃんが家に帰る途中で転んでけがをしたらしいよ」。

（吉井）これの隠岐弁でこうなります。「坂本のあんやがわがとこのいにしなにくどれてやまちしたやあなわ」。この後でたぶん薬を塗ってもらって「はしるー」と言うんですよ（笑）。

（坂本）染みるでしょうということ。

（吉井）ここで「はしるー」と言うからね。

（坂本）あのくだりですよね。

（吉井）え。まずこの「坂本のあんやが」というのは，「あんや」というのは別にお兄ちゃんじゃなくて，長男のことを隠岐弁ではよく「あんや，あんや」。

（坂本）「あんやさん」とか。

（吉井）次男以下のことは「おじ」と言います。僕なんか四男なので「すておじ」ですよ（笑）。

（坂本）「すておじ」。

（吉井）「おじくそ」とか言いますからね。

（坂本）「おじくそ」ですね。

（吉井）すごい差がありますからね，本当に。長男は「あんや，あんや，あんやさん」。我々は「おじ，おじくそ」。その「あんや」です。「わがとこ」，自分の家のことですね。マイホームのことを「わがとこ」。「いにしな」というのは帰る途中，分かりますよね。転ぶことを隠岐弁で「くどれる」と。

（坂本）「まくれる」というのもありますね。

（吉井）「まくれる」と「くどれる」は微妙に。

（坂本）違う。

（吉井）違いますね。説明できますよね。

（坂本）「くどれる」は前につんのめる。

（吉井）そんな感じですよね。石に引っ掛かってこんな感じでね。

（坂本）「まくれる」はちょっと滑って尻もちをつくような。

（吉井）バナナを踏んで，こんな感じでね。

（坂本）バナナを踏んだことがないですけどね。

（吉井）イメージがよくありますね。「くどれる」。やまちというのが，これはたぶん過ちから来ていると思うんですけど，けがすることを「やまち」と言います。よく「屋根から転げてやまちた」とかと言いますよね。このけがのことを「やまち」と言います。

（坂本）吉井さんの屋号が。

（吉井）うちは「やまじや」です。全然違います（笑）。さあ，そしてこの言葉を受けて次の隠岐弁があります。それがこうです。

（坂本）さっさと帰らないからだよ，いい気味だ。さっさと帰らないからだよ，いい気味だ。

（吉井）だいたい言葉，汚いですよね（笑）。

（坂本）汚いですね。

（吉井）それはちょっとすみませんけれども，これが隠岐弁になりますとこうなります。「ちょいちょいいなんけだじょうだ」（笑）。

（坂本）あしたの？

（吉井）いや，アニメじゃなくて。これも「ちょいちょい」というのが，だいたい最初に言ったように隠岐弁というのは 2 回続けるのが多い。早くしろと，早くせいというのを「ちょいちょいせい」と言いますよね。「ちょいちょい」って早くせいと。「いなんけだ」，帰らないから。「じょうだ」とういのが，これがまた汚い言葉ですけれども，吐き捨てるように言っていますね。

（坂本）「じょうだ」ね。

（吉井）いい気味だよというのが「じょうだ」。「さ，まじょうだわ」とかと言います。これも皆さん，知っていますよね。聞いてみるたらああ，そうだったとなると思うんですけど，ぜひまた思い出して使ってください。

（坂本）思い出して。

（吉井）はい。さあ，ここまでが学校でよく使われる隠岐弁で。

（坂本）そうですね。

（吉井）いよいよ次から本番になりますよね。時間もだいぶなくなってきましたので。じゃあ，次の項目を。上級編です。

（坂本）上級編です。ちょっと難しくなります。

（吉井）ここからは多少，標準語も長くなりまして，古風な隠岐弁も出ます。もしかしたら諸先輩の方々もそんな隠岐弁知らんぞというのも出てくるかもしれませんけど，そこは今日は了承していただいて，楽しんでもらえたらいいと思いますのでね。

まず最初の隠岐弁は，これ隠岐というのは祭りとか神事とかがよくあって，清めだ，清めだ，よくお酒を飲みますよね。そういうお酒をよく飲んだときに聞かれる隠岐弁ですね。まず標準語でお願いします。

（坂本）「君はたいそうお酒を飲んでべろべろじゃないか。何を言っているんだ，君とどっこいどっこいだよ」。「君はたいそうお酒を飲んでべろべろじゃないか。何を言っているんだ，君とどっこいどっこいだよ」。

（吉井）こういうシチュエーションはよくありますよね。これは隠岐弁でこうなります。「こんたがいに酒飲んでよえたぼじゃね。何いっちょ，こんたといーでーだ」（笑）。

（坂本）出てきましたよ，ほら。

（吉井）まず「こんた」はさっき言いました，君ね。もうたくさん酒を飲んで「よいたぼ」。「よいたんぼ」とも言いますよね。べろべろな泥酔したやつのことを「よいたぼ」と言います。

そして「何いっちょ」。君といい勝負だよ。どっこいどっこいは隠岐弁で「いーでーだ」。

（坂本）ナイスな日。

（吉井）それはグッドデー（good day）でしょうね（笑）。「いーでーだ」って。

（坂本）「いーでーだ」。

（吉井）いい勝負だよということを「いーでーだ」と言います。これもぜひ使ってもらいたいですね。

（坂本）使ってもらいたい。

（吉井）今年にあのね，また来年からでも。

（坂本）年末年始ね。

（吉井）年末年始にたぶんこれはありますからね，ぜひ。「よいたぼ」はよく使いますからね。さあ，そして次はまだ上級編の隠岐弁。じゃあ，標準語をお願いします。

（坂本）「君のお母さんはくどくどむだ口が多いし，本当にいらぬおせっかいばかり焼くよね」。

（吉井）いますよね，こういう人ね。

（坂本）「君のお母さんはくどくどむだ口が多いし，本当にいらぬおせっかいばかり焼くよね」。

（吉井）これが隠岐弁になりますとこうなります。「こんたのかあちゃんはせんじょうこんごうがおーてしんからちょうさいぼうだな」（笑）。

（坂本）密教の呪文でしょう，先生。真言宗か何かですよ，これ。

（吉井）これ，僕，人に言ったら本当に呪文かと思われる。

（坂本）これはそうでしょうね。

（吉井）これは「せんじょうこんごう」というのは実際，本当にたぶんおそらく南無大師遍照金剛というお経があるじゃないですか。このお経をずっとつぶやいているぐらいくどくどくどくどずっとしゃべっている状態を「せんじょうこんごう」が多い。

（坂本）国分寺さんに失礼ですよ。

（吉井）違う，違う。そんなことないですよ。じゃなくて，「せんじょうこんごう」が多いというのはむだ口がずっとしゃべっている，いつまでたってもしゃべりが止まらん人。「せんじょうこんごう」が多い。

（坂本）洗って混ぜるんじゃないですよね。

（吉井）そうじゃない。早いから付いてこられない，皆さん。もっとゆっくり。

（坂本）ゆっくりして。

（吉井）この「しんからちょうさいぼう」。本当にというのを隠岐弁で「しんから」と言いますね。「ちょうさいぼう」というのはここが赤になっていませんけど。

（坂本）本当だ。

（吉井）「ちょうさいぼう」，「ぼう」までが。隠岐弁でほかに「せいろく」という言葉あります。「せいろく」というのは，いらないお世話を焼いたりとか，いらないことをするなというのは「せいろくすんな」と言いますよね。その「せいろく」よりもまだ本当にいらないことばかりする人のことを「ちょうさいぼう」という。

（坂本）うちのおやじもそうですね。

（吉井）確かにいい人ですよね。いい人というか（笑）。

（坂本）フォローして。

（吉井）確かに若干「ちょうさいぼう」ですよね。

（坂本）若干「ちょうさいぼう」。

（吉井）では次。次は隠岐のびっくりしたときに使う隠岐弁を紹介します。では標準語をお願いします。

（坂本）「びっくりしたー，本当に驚いたよ。びっくりしたー，本当に驚いたよ」。

（吉井）これが隠岐弁でこうなります。「ばら～」（笑）。

（坂本）これだけですか。

（吉井）これはよく使っていますよね。「ばら～」と言って。

（坂本）使っています，これ。

（吉井）使っています。何か見て「ばら～」と言っていいたじゃないですか。

（坂本）そうですか。

（吉井）これは本当，使いますよね。じゃあ，今度はまた次のことをやりましょうか。じゃあ，次お願いします。

（坂本）「うわー，びっくりした，もう死ぬほど驚いたよ」。「うわー，びっくりした，もう死ぬほど驚いたよ」。

（吉井）これはこうなります。「ばら～っしゃ」（笑）。

（坂本）これはうそでしょう，絶対。

（吉井）これは本当にもう死ぬほど。死ぬほどびっくりしたときは，多少「しゃ」というのはいろいろな語尾が変わるんですけど，東の方面の人がよく使っています。

（坂本）東の方面？

（吉井）はい，使っていますけど。この「ばら～っしゃ」というのは一生のうちに 3 遍ぐらいしか。3 遍言った後は死ぬ前かなぐらいな。

（坂本）そうですか（笑）。

（吉井）そのぐらいもう心臓に負担が掛かるぐらいにびっくりしたときに，うわっと言って。

（阪本）「ばら～」って。

（吉井）3 回言ったらもう後は死ぬかなというような，びっくりするような。でもちょっとこれは皆さん，せっかくですから一遍復唱しましょうかね。いいですかいきますよ，では皆さん。「ばら～っしゃ」。

（会場）「ばら～っしゃ」。

（坂本）今 1 回言ったので，あと 2 回しか使えないです（笑）。

（吉井）もう 1 回に入っていますからね。

（坂本）あと 2 回だけですよ。

（吉井）あと 2 回しか言えません

（坂本）気を付けてくださいね。

（吉井）言ったらもう次はやばいです。心臓に負担が掛かります。そして次に行きますかね。次もまた隠岐ならではの表現です。では標準語をお願いします。

（坂本）「ああ，しまった。どどどどどうしよう，何てことをしてしまったんだ，取り返しの付かないことをしてしまった。悔やんでも悔やみ切れないよ」。「ああ，しまった。どどどどどうしよう，何てことをしてしまったんだ，取り返しの付かないことをしてしまった。悔やんでも悔やみ切れないよ」。

（吉井）これは隠岐弁でこうなりますね。「やいなー」（笑）。

（坂本）さっき俺，散々すごい標準語を長いこと言ったんですけど。これだけですか。

（吉井）隠岐ではこの一言で。うわ，しまったこんな。「やいなー」ですべてが。これもせっかくですから皆さん，復唱しましょうね。いきますよ「やいなー」。

（会場）「やいなー」。惜しかったな。

（坂本）もうちょっと拡大してもらっていいですかね。ここに「ちゃっ」とあるんですね。

（吉井）「やいなー」を必ず言う前に。

（坂本）舌打ちがある。

（吉井）「やいなー」って舌打ちしてほしい。「ちゃっ　やいなー」って舌打ちを入れることによって，本当に悔やんでも悔やみ切れないなという，しまったなという表現が入っています。

（坂本）なるほど。難しいですね。

（吉井）はい。でも，これも皆さんよく使いますよね。さあ，そしていよいよ時間的にも最後の。これも大変奥深い。

（坂本）隠岐ならではの。

（吉井）隠岐ならではの隠岐弁で，これも標準語が長いですけど，奥深い言葉です。では，お願いします。

（坂本）「それは私もいろいろと考えて，あらゆる方面で検討してみたんですが，どうしても，どうしてもできない事柄なんです」。「それは私もいろいろと考えて，あらゆる方面で検討してみたんですが，どうしても，どうしてもできない事柄なんです」。

（吉井）これは隠岐弁でこうなります。「さ，いもだ」（笑）。

（坂本）出ましたね。

（吉井）これは皆さん，その通りでしょう。ほかにどうだと言いようがないですものね。

（坂本）あれだけ長いこと言っていましたけれども。

（吉井）要するにもう「さ，いもだ」と言ったら，ああ，そうだなで。

（坂本）これは絶対否定ですね。

（吉井）何か無理を言われても「いもだ」と言ったら，隠岐の人間は，あ，じゃあ，しょうがないなと。

（坂本）納得してくれるんですけどね。

（吉井）もう，できないんだなとね。ぐらい，絶対否定の「いも」という意味。

（坂本）何でこれは「いも」なのか。

（吉井）「いも」というのは「い」と「え」の間。「いも／えも」。もうできないよという意味。いもって，これは植物じゃないですよ。

（坂本）分かっていますよ。

（吉井）これもせっかくですから復唱をしてもらいます。最後ですから。

（坂本）そうですね。

（吉井）力いっぱいみんなで一緒に最後に言って終わろうかと思いますので。私が言いますので皆さん，はい，では。「さ，いもだ」。

（会場）「さ，いもだ」。

（坂本）やっぱり上手ですね。

（吉井）もうやめてよと言われているみたい。

時間もいい時間になってきていますので。ということで以上，こんなふうな形でやらせていただきましたけれども，どうだったでしょうか。（拍手）

（坂本）ありがとうございます。何回も言いますけどここからは本格的な難しいお話で。

（吉井）我々は本当に口汚しですから，この後に本格的な本当の素晴らしい隠岐の講座が始まりますので。ただ，隠岐弁を思い出していただいて，明日から楽しんで隠岐弁を使っていただけたら，我々は大変うれしく思いますので，ぜひまた何か機会がありましたらまたお会いしたと思います。

（坂本）どうもありがとうございました。

（吉井）どうもありがとうございました。（拍手）

（ＡＡ）どうもありがとうございました。これから励みたいと思います。ありがとうございました。（拍手）